

防災カルテ利用ガイド（地域版）

防災カルテを用いて地区の特性や災害リスク、防災上の課題を理解し、地域でできる防災対策について考えてみましょう。

1 自助・共助・公助について

災害対策の心得として、自ら防災対策に取り組む「**自助**」、家族や身の回りの人と地域で、皆で協力して取り組む「**共助**」、行政や公的機関が取り組む「**公助**」があります。災害に備えるためにはこの3つの助け合いが重要です。

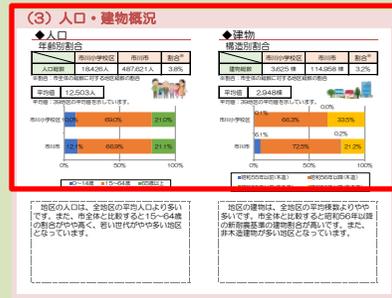
阪神・淡路大震災では、倒壊家屋のがれきに挟まれた方などの大半が近隣住民等の「**共助**」により助けられました。地域の効果的な防災対策として、自治会や自主防災組織等を活かし、互いに協力し合う、「**共助**」に取り組みましょう。



2 防災カルテから地区の現状を知る

(1) 人口・建物概況

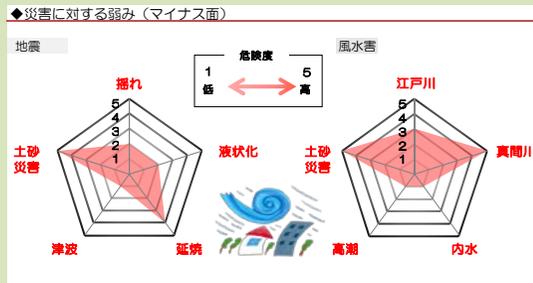
地区内にはどんな人が住んでいるのか、どのような建物があるのか等、地区の人口構成や構造別の建物割合を把握し、地域内の**協力体制**や**支援体制**、災害種別ごとの**防災対策**に役立てましょう。



(2) 災害リスク評価

防災カルテでは、地区の災害特性や安全性、防災力について**レーダーチャート**で示しています。

地区の災害に対する**強み**、**弱み**を理解し、地域内で**強みを活かし、弱みを補うための地域活動を考えましょう。**



(3) 被害想定調査結果（地震・風水害）

防災カルテでは、自分の地域がどのような災害によりどれだけ影響を受けるかを示しています。それぞれの特性に応じて**災害種別ごと**にどのような**防災対策**が必要かを考えてみましょう。

(6) 被害想定結果（地震・風水害）

◆地震被害（被害を受ける割合）

項目	高槻市平均	市川小中地区
全壊・倒壊の割合（揺れ・液状化・急峻地地盤割）	2.1%	3.9%
半壊の割合（揺れ・液状化・急峻地地盤割）	13.4%	16.0%
被害の割合	12.2%	19.9%
浸水被害（浸水）の割合	0.0%	1.0%
死者の割合	0.1%	0.1%
負傷者の割合	5.3%	7.9%
避難者の割合	0.9%	0.9%

◆風水害（被害を受ける割合）

項目	高槻市平均	市川小中地区
全壊・倒壊（内水）の割合	61.0%	52.0%
半壊（内水）の割合	37.6%	13.6%
浸水被害（内水）の割合	0.0%	20.5%
浸水被害（高潮）の割合	0.0%	1.9%

※市川小中地区は、高槻市平均と比較して、浸水被害を受ける割合が大きい傾向があります。また、死者の割合については、高槻市平均と比較して、浸水被害による死者の割合が小さいことから、他よりやや少なくなっています。一方、浸水被害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による被害が大きく、市川小中地区と比較して浸水被害が多くなっています。

(4) 地区内の防災関連施設

防災カルテには**災害時に重要な主な施設**について示しています。近隣にどのような施設がどこにあるのかを確認し、避難所や避難場所、負傷時の医療救護所等を決めておきましょう。

＜＜災害時に重要な主な施設＞＞

- 避難所
- 避難場所
- 福祉避難所
- 医療救護所
- 要配慮者利用施設



＜＜避難場所と避難所の違いは？＞＞

- 避難場所…大きな公園や広場等、災害時に危険から身を守るため、一時的に避難する場所。
- 避難所…災害により、居場所を確保することができなくなった方が滞在する施設。

(5) 防災上の課題

防災カルテでは、(1)～(4)の地区の現状を踏まえ、地域が解決すべき課題について示しています。課題をを把握し、項目ごとに**必要な防災対策**について考えてみましょう。

(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6弱の揺れが予測され、液状化や延焼による危険が高いことから、耐震対策や延焼対策、ライフライン途絶に備え、家庭での備蓄対策が重要です。
風水害	地区の西側に江戸川が流し、近くに豊洲川が流れていることから、浸水被害の恐れがあり、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区内には、狭い道路が多いことから、避難ルートの確保が重要です。また、延焼途断となる空地が少ないことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区には、避難所の受入力及び避難場所の受入力が低いことから、災害発生時は避難所及び避難場所が混雑する可能性があり、あらかじめ近隣の避難施設を確保しておくことが重要です。

